山崎（記念）農業賞受賞者はいま⑧

福島の有機農業再興のために

◉NPO法人 福島県有機農業ネットワーク

第36回・2012年受賞。原発事故に生産者、消費者、研究者等の総力を結集、農の営みを通して安全安心への実証に取り組む。

震災・原発事故が変えたわが家の経営

わが家では野菜、果樹、水稲を主に栽培しています。野菜は夏野菜、秋冬野菜含めて10数種類を有機無農薬で、果樹はりんごと桃を栽培しています。震災前は、毎週地元の消費者の方々へ直接野菜を配達する方式をとっていました。両親が有機農業を始めた30数年前は、有機野菜に関心を示す方はとても少なく、非常に苦労したそうですが、震災前には130軒ほどまで顧客を増やしていました。

しかし震災・原発事故によって、状況は一変します。顧客は一気に3分の1程度にまで減り、このままでは経営が非常に苦しくなると、私の母を代表として2012年に株式会社「壱から屋」を設立し、関東圏の消費者をターゲットとした「月壱くらぶ」という配送業務を始めました。その名のとおり月に一度農産物や加工品を届けるシステムで、主にFacebookを通じて顧客を増やしてきました。

最初は数軒だった顧客数も、現在では150軒まで増えています。わが家の農産物だけでは賄いきれず、地元の農家や加工所の方々にお願いして、農産物や地元のものを使った加工品を納品していただき、それらを取りまとめて発送しています。可能な限り有機栽培で減農薬な農産物を選び、また、もちろん放射性物質の検査もすべての品に対して行ない、基本的に10Bq/kg未満のもののみ取り扱うようにしています。これらの「月壱くらぶ」の発送だけではなく、トマト、りんご、桃の個別発送も同時に行ない、昨年は非常に多くの方に購入していただくことができました。

2013年の7月には、壱から屋の業務のひとつとして、隣町の三春町に「えすぺり」という直売所を開きました。「田村地方の農家を元気にしたい」をコンセプトに、主に田村地方の農家や加工所の方に農産物や加工品を出荷していただいています。もちろんすべて放射能の測定を行ない、化学肥料や農薬の使用量とともにそれぞれ掲示して販売しています。また軽食も出せるので、今後はカフェの業務にも力を入れていきたいと考えています。

福島県有機農業ネットワークの活動の展開

福島県有機農業ネットワーク（以下有機ネット）は、有機農業を行なう生産者や地域のネットワークを広げるために2009年に設立され、主に農家のコミュニケーションの場として機能してきました。しかし震災後、福島県における農業の環境は大きく変わり、それに伴い有機ネットの担う役割も変化しました。

2011年の11月からNPO法人となり、放射能汚染対策の技術検討会議や脱原発についてのシンポジウムなどの多くのイベントを企画し、2012年の3月には放射能測定器を導入し食品の測定も行なってきました。また、東京都の下北沢に、福島県のアンテナショップと被災者の方々の交流の場として「ふくしまオルガン堂 下北沢」をオープンしました。

福島県の有機農産物を販売し、それらを使った料理を提供するとともに、福島の現状を伝えるための様々なイベントを行なっています。

また有機ネットでは、有機農業の良さを広げるため直売イベントの企画も行なっています。2013年の11月に、その直売イベントのひとつである「ふくしまオーガニックフェスタ2013」が有機ネット主幹で開催されました。オーガニックフェスタとは、全国各地で行なわれている、主に有機農産物を販売しオーガニックの良さを広めるためのイベントで、福島県では2013年に初めて開催されました。

私が有機ネットに関わるようになったイベントでもあり、来場者も3,000人を超え、東京からのツアーも同時に企画するなど、今後に繋がるような良いイベントになりました。数か月後、有機ネットが発足するきっかけとなった「農を変えたい！東北集会」がまたここ福島で開催されることになり、有機ネットが主幹となって企画を立てました。私はこのイベントの実行委員会にも参加し、役員の方々と協力してイベントを作り上げました。

徐々に有機ネットに深く関わるようになり、今年の春に菅野理事長から依頼があったため、有機ネットの理事へとなりました。現在は、役員の一人として「ふくしまオーガニックフェスタ2014」の企画を行なっています。今回のフェスタは「生産者と消費者のコミュニケーションの場」を一番のコンセプトにしており、9月に郡山市にて開催する予定です。

福島県有機農業ネットワークの今後の課題

有機ネットでは震災以降、失われてしまった有機農家を取り巻く関係性の修復のため、様々な企画、業務を行なってきました。特に放射能測定に関しては、2012年3月から食品、土壌の測定を行ない、現在も継続しています。食品放射能測定の需要は震災以降徐々に減少してはいますが、測定業務は継続しつつ、有機ネットとして、風評被害の払拭により力を入れていかなければなりません。

オーガニックフェスタのような直売イベントを積極的に企画することで、有機農産物の良さを消費者と共有し、「オーガニック」というプラスのイメージをうまくアピールすることによって、福島県の農産物にある良くないイメージを変えていけるのではないかと思います。また、現在は運営資金として各企業から助成金をいただいているのが現状であり、独立採算で運営していくための努力が必要です。新たに加工品の製造など独自の製品を販売することで利益を上げていくなど、多くの可能性があると思います。また、グリーン・ツーリズムの考えも積極的に取り入れ、ファームステイなど有機ネットならではのツアー企画なども行っていきたいと考えています。

有機ネットは現在、県内でも数少ない有機農産物の取りまとめ団体でもあります。有機専門で生産者と企業の仲介団体はほとんどなく、風評被害で売り先が減少している今、その役割は非常に大きくなっています。現在有機ネットと取引のある企業・販売店は多くはありませんが、有機農産物を必要とする場所と徐々に繋がりをつくり、少しでも生産者の耕作意欲の向上につながればと考えています。

*

私が就農したのは2011年の7月。やりたい農業を放射能に邪魔されたくないという一心から、大学での研究助手の仕事を切り上げ福島に戻りました。色々な意見があるとは思いますが、私は福島に戻ったことは後悔していません。状況は厳しくても、私はこの土地で農業を続けていきたいと思っています。

報告／大河原 海
(NPO法人 福島県有機農業ネットワーク理事)